

令和2年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491900062	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター衣笠		
所在地	( 〒238-0032 ) 神奈川県横須賀市平作5-10-7		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年10月30日	評価結果 市町村受理日	令和3年1月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平作5丁目の緑が多い住宅街にニチイケアセンター衣笠はあります。  
1ユニット9名 2ユニット 18名の方々が生活しています。女性が多いですが・・・  
生活の中で職員との共有部分を多くし 自宅にいた時と変わらない・寂しくない・笑顔の多い毎日をモットーとし生きがい・役割をもった生活を送っています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年11月13日	評価機関 評価決定日	令和2年12月19日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所概要】</b> 事業所は、JR横須賀線衣笠駅からバスに乗り、平作町バス停から徒歩約5分の住宅地に立地している。周囲に神社や公園があり緑の多い環境である。鉄骨造り二階建ての建物で、共用型通所介護を併設している。浴室は2方向介助対応のユニットバスで、居間には、畳敷のコーナーがある。新型コロナ感染防止のため夏季より予約制のオンライン面会を実施している。 <b>【理念の共有と実践】</b> 休憩室に『「高齢者の尊厳の保持」一人一人の生き方を大切にして、その幸せを求めていきましょう。』という事業所の理念を掲示し共有している。業務に携わる前に、社是及び経営理念と共に各自で確認している。管理者は、「見守りから発見に繋げ、利用者に役割をもってもらおう」という自身のモットーを日常的に職員に伝え、理念の実践につなけている。 <b>【食事を楽しみなものにする支援】</b> 朝食は、パン食を中心に職員が調理している。昼食と夕食は、配食業者の献立に従い食品を職員が湯煎し温め提供している。形態を変えた「なめらか食」なども提供している。利用者は、盛り付けや後片付けなどを行い生きがいや自信につなげている。利用者の嗜好を反映する意図で月に数回、手作りの食事を提供したり、利用者が好む寿司や中華料理、ファミリーレストラン等から出前を取って、食事を楽しむ機会を作っている。
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ニチイケアセンター衣笠
ユニット名	ラン

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	ニチイケアセンター衣笠
ユニット名	カトレア

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	休憩室に事業所理念を掲げてあり業務に入る前に各自唱和している。	休憩室に『「高齢者の尊厳の保持」一人一人の生き方を大切にして、その幸せを求めていきましょう。』という事業所の理念を掲示し共有している。業務に携わる前に、社是及び経営理念と共に各自で確認している。管理者は、「見守りから発見に繋げ、利用者に役割をもってもらおう」という自身のモットーを日常的に職員に伝え、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・ボランティアに来て頂いたり運営推進会議にも参加して頂いたり等触れ合いの場を設けているも、今年はコロナの影響にて交流の場はない。	平作町内会に加入し、以前は盆踊りの行事に参加していたが、利用者の重度化から、近年は参加できなくなっている。2ヵ月に1度、地域包括支援センターが主催する「老人のつどい」にも参加の機会が減っている。歌のボランティアは毎月、大正琴などのボランティアは行事の際に来訪し演奏などを披露して利用者とは交流している。新型コロナ感染予防のため、ボランティアの受入れを中断している。	利用者の重度化や新型コロナ禍にある状況ですが、以前に行われていた中学生との交流や事業所の行事に地域の方を招待するなど、地域とのつながりが保てる働きかけや工夫をして、再び交流できることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、地域の方に介護相談等いつでも応じますと、窓口を開いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々の助言を職員に周知しサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、概ね奇数月に開催している。新型コロナ感染予防の為、換気などに配慮して玄関で開催している。町内会の会長、事業所のオーナー、ボランティア、民生委員、地域包括支援センターの職員、市の職員、事業所の職員がメンバーとなっている。訪問看護師による新型コロナの勉強会や事業所の活動報告などを行い、その内容について話し合っている。歌を唄う事を推奨する意見を受けて、ボランティアの活用につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば常に報・連・相をしている。行政も協力的です。	市の担当職員とは、運営推進会議の報告や事故報告などで連絡を取っている。また、日常の相談や報告はメールでやり取りしている。新型コロナ禍において市主催の研修は、リモート開催が増える傾向にある為、今後は環境を整えながら参加していく意向である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束研修を管理者が行っている。今まで身体拘束をしたことがない。日中は施錠をしていない。	日中、玄関とユニットの扉は、開錠している。現在、帰宅願望ある方はいない。利用者に不意の外出のそぶりがみられた時は、否定や説得をしない対応を心掛けている。毎月「身体拘束廃止委員会」や「身体拘束研修」を通して身体拘束をしないケアの確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の中で「こんなことも虐待になるのね」と気付かされている部分がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内の研修にて周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が身元引受人の方と契約を結び、難しい用語の内容等は補足し詳しく契約者が納得のいくように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年顧客満足度アンケートの記入を家族にお願いしている。満足度80点以上の評価を貰っている。	月々の請求書などを郵送する際に、連絡事項や事業所内の様子を記載した「お客様各位」を同封している。家族の来訪時の会話や法人が実施する顧客満足度調査で要望・意見を把握し、反映している。	現在の新型コロナ禍において外出や面会がしにくい状況の不安を取り除くためにも、利用者の様子を家族などに伝える事を期待します。また、要望などを伝える機会として家族に運営推進会議への参加を促すことを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い、意見交換し提案の場を設けている。それに対し、モニタリング等もやっている。	月1回、全員参加の「ミーティング」を開催して意見や提案を吸い上げ、利用者のケア等に反映している。ユニットごとの会議もその中で行っている。行事やシフトの希望などの意見を聞き、検討し反映している。個人面談という形式はとっていないが、必要時には管理者が個別に対応して相談などに応じている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談時間を作れない状況にある中で、勤務中声かけ（プライベートも含む）し様子がいつもと違うスタッフに関しては時間を設け話し合いの場を作っている。最近では退職するスタッフが減った。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ不足により外部等での研修に参加させてあげられないのが現状なのでミーティング等で「この方に関してはこんな風にするといいよ」と私が助言し実践し、指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ニチイの他拠点との交流の機会を作ろうと（職員交換研修）企画を立てたこともあったが、職員不足によりまだ実行できていない。今後機会を設けられるよう努力していく。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の支援の中で傾聴する時間があり（食事・入浴・排泄・お手伝い等）コミュニケーションをとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時、じっくり話を聞き受け止めている。入居時と同様、本人はもちろん家族にも満足いただけるよう来訪時に要望等があれば、とつなげているが、コロナの影響にてご家族様と会えず、話す機会も減った。計画書等のお願いの電話時に聞いたりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人の要望は計画書に記載し実行して、なるべく近づけるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅に居た時に近い状態でホーム生活を送れるよう出来る範囲以内で応えている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の事を忘れない様（コロナにて家族と逢っていない）会話の中で家族の話をしたり聞いたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナにて今は出来ていない	馴染みの美容室を利用する方がいる。外出を希望されない利用者が殆どで、馴染みの場所への外出の機会が少い事に加え、新型コロナ感染予防のため中断している。入居前からの生活習慣で、クロスワードや点つなぎのパズルを継続し楽しむ方がいる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日交流の場を設けている。時には会話の中に入れない時、職員が仲介役となり仲間作りしたり、出来る方が出来ない方へのお手伝いをしたり等、支えあっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に今後相談事があればいつでもかまいません、と一言言葉をかけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	カンファレンス等でスタッフ間で共有している。	アセスメントや日々の関わりの中で「相撲が好き」、「家事がしたい」、「好きなように過ごしたい」など、利用者の意向を把握している。意向の把握が困難な場合は、いくつかの選択肢を提案して、利用者の表情や行動を確認しながら汲み取り、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に聞きアセスメントシートに記入。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフが本人の出来る事・出来ない事の把握・記録等に残し共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に1回見直しをしている。計画作成担当者のみの意見で作成はしていない。本人・家族の意向も踏まえ作成している。	短期目標6ヵ月、長期目標1年の介護計画を作成している。モニタリングを行い、利用者の状況について意見交換して計画作成につなげている。介護計画は通常6ヶ月で見直し、状況に変化があればその都度見直している。「安全に生活してほしい」などの家族の意向や医師等からの情報も反映し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の中で本人の言葉等記入し、それを参考にしながら計画書に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お互い支えあいながら生活を楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医・訪看共24Hオンコール対応 ご家族の希望があれば往診時に立ち会うこともあり（逆の時もある）訪看からの申し送りは報告書にて伝え主治医よりサインもらっている。	かかりつけ医の選択は自由で、4名の方は利用開始以前からのかかりつけ医の往診を受けている。他の利用者は、協力医療機関の内科の医師の往診を受けている。看護師が週1回訪問して健康管理をしている。歯科医師は月2回来訪し、契約した方の治療などを行っている。皮膚科などの専門医の受診は家族が同行している。職員が診察の結果を聞き取り、介護記録や支援経過記録に記載して内容を共有している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	来訪時にH長が申し送り介護等での相談もしている。日によって気分がのらない利用者スタッフが協力しスムーズに業務が行えるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の連携室の方々等情報共有（病院によってはCM（H長）が病院に呼ばれることもある）普段より空室状況等連絡している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望に沿うよう答えている。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」で事業所の方針を家族などに説明し、共有している。重度化した時は、協力医療機関の医師などと連携して、家族などの希望を再確認しながら、利用者の状況に応じた対応をしている。過去に数名の看取りの経験はあるが、近年は、対応例が無い。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成 急変時以外でも24H報告・相談できる体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災頭巾を用意（非難時） 災害時の行動計画を休憩室・事務所に貼り付け、地域の方のお願いを運営推進会議等で協力願っている。	2020年6月に火災を想定した自主避難訓練を実施し、11月25日に消防署立ち会いの防災訓練を予定している。運営推進会議の参加者に災害時の応援を依頼している。災害時の備蓄品は法人が管理し供給している。紙コップ、割りばし、ウェットティッシュなどの備品と食料（水、五目御飯、粥、缶詰、乾パンなど）を「非常食管理台帳」を作成し管理している。	
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい声かけを心がけ理念にそって対応している。	入社時の研修で人格の尊重などを学んでいる。利用者の呼称は“さん付け”を基本としているが家族に確認して、慣れ親しんだ“ちゃん付け”で呼ぶ方もいる。入浴時はタオルを使って肌が見えないようにしたり、職員間で排泄の報告をする際は隠し言葉を使い、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢により自己決定できるような声かけをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく希望にそうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服選び・整容にも気をつけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の盛り付け・片づけ等共有時には味付けの声がかけてもしている。	朝食は、パン食を中心に職員が調理している。昼食と夕食は、配食業者の献立に従い食品を職員が湯煎し温め提供している。利用者の嗜好を反映して月に数回、手作りの食事を提供している。形態を変えた「なめらか食」を提供している。利用者は、盛り付けや後片付けなどを行っている。利用者が好む寿司や中華料理、ファミリーレストラン等から出前を取り、食事を楽しむ機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療従事者に相談しながらその方に合った食事形態での提供ご本人の持っている力を活用。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師と連携しながら行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し定期的な支援を行っている。	職員は「水分・睡眠・排泄チェック表」で利用者のリズムを把握し、トイレでの排泄を促している。夜間は、不安解消のためリハビリパンツからおむつの使用に変える方など、一人ひとりの力に応じた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬にて排便コントロールできている。内服薬では困難時は主治医より訪問看護指示書にて浣腸・レシカ使用することもまれにある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週4日午後に1F2F合同で行っている。入浴日以外は足湯を行っている。（冬場）	利用者は、概ね週2回入浴している。入浴を好まない方には、タイミングを見計らい、利用者が立ち上がった時に声をかけるなどの工夫をして入浴を促している。現在、同性介助の希望はない。長湯や柚子湯などで入浴を楽しむ方がいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気分・体調に考慮し自己決定できるように照明等もご本人に沿うよう行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携をとり相談している。（逆の場合もある）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月イベント計画、気分転換等ご家族にも協力を願っている。 (今年はコロナ影響あり)			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人材不足により戸外に出かけることはできていない状況。	車椅子を使用している方が増え、散歩などの外出を希望しない利用者が多いことや家族から安全優先の希望もあり、外出の機会が減っている。年間行事計画を作成し、外出の代わりに室内のプログラムを充実させている。新型コロナ感染予防のため、法人から外出を禁止されており、ベランダで洗濯物干しや外気浴を行い、気分転換をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ影響にて買い物には行っていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者いない。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りカレンダー・季節を感じて頂けるよう飾りつけをしたり清潔第一にしている。	日常清掃の他、年2回専門業者に依頼して床や窓、エアコンの清掃などのハウスクリーニングもして清潔を保っている。空気清浄機を設置したり、窓を開閉して換気に配慮している。新型コロナ禍においては非常口も開閉している。「ゆ」と書いた暖簾をかけて浴室をわかりやすくしている。鏡餅や雛人形などを飾り、季節を感じられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	光・音のあるホールにしている。いつでも誰でも利用してもいいんだよという思いで・・・		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族・本人にお任せしている。	事業所が備えたクローゼット、空調機器、カーテン、照明、ピクチャーレールがある。利用者は、カレンダー、時計、写真、仏壇、机、椅子など、思いおもいの物を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通り道に物を置かない。		



# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター衣笠

作成日 2020年 11月 16日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
2	2	事業所と地域とのつきあい	地域・小・中学校・幼稚園等の付き合い	池上小・中学校・幼稚園等ホームに來訪して頂きふれあいの時間を設けさせて頂けるようお願いにする	コロナ終息後
1	6	運営に関する利用者 家族等意見の反映	ホーム内での行事・イベント等の情報提供	年度の行事作成をご家族に渡し毎月お手紙にイベントの様子・写真を送る	来月～

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。